

## 【レポート】

---

---

八雲町職労では、主に地域環境美化活動などボランティア活動に参加する取り組みを継続して行っています。本レポートでは、ボランティア活動の取り組みと地域とのつながりが重要な公務とのつながりを考察し、組合員として、さらに自治体職員としてどのように地域と関わっていくのか、どのような視点を持つことが必要なのか、見えてきた課題について報告します。

---

---

### 地域とつながる そして町民と歩む — 地域活動からつながるまちの未来 —

北海道本部／道南地方本部・自治労八雲町職員労働組合 近藤 里美

# 地域とつながる そして町民と歩む

## はじめに

自治体がまちを魅力的に発展させること、また有事に備えるためには、地域とのつながりが重要であり、町民と協力しあうことが必要となってきます。

そのためには日頃から地域とつながり、町民と顔を合わせる事が近道になると考えています。

地域とのつながりは地域活性化にもつながり、労働組合もその責務をはたすべき運動分野で、積極的な参加が求められていると認識しています。まずは活動を展開することがひとつの動きとして必要な第一歩となると考えます。

## これまでの取り組み

前述で“活動を展開することがひとつの動きとして必要”と述べましたが、八雲町職労の自治研活動のウエイトは大きくないというのが現状です。

今は、主として地域ボランティア活動を行っており、地域住民の方々とコミュニケーションをとりあって活動を行っています。

まずは、ボランティア活動について報告し、その後地域とのつながりが重要な公務のひとつ「防災（災害対策）」についてつなげていきます。

海岸清掃



花壇整備



災害対応



# 八雲駅前広場花壇整備

八雲駅前は、八雲町のメインストリートに位置するまちの玄関口となっており、また北海道三大あんどん祭りの「八雲山車行列」のフィナーレ会場にもなっています。

そんなまちの第一印象ともいえる場所に花壇が作られており、ボランティア団体・個人・行政が協力して花の苗植えから雑草除去等の維持管理・シーズン終了後の後片付けなどを行っています。八雲町職労は、ボランティア団体のひとつとして組合員に参加の声かけをして、地域住民とともに汗を流しながらコミュニケーションを図っています。

当初は少しぎこちない手つきで、ベテランの町民からアドバイスをもらいながら作業を進め、腰や足が痛くなり、日頃の運動不足を強く感じます。

日差しが強い中、少しでも八雲町まちなか美化活動として“八雲町は綺麗だ”と足を止めてくれる人がいることを願い活動を継続していきます。



# 花壇整備の概要



時期としては、6月下旬から10月上旬頃までで、土曜日の大体午前9時から10時の1時間を目途に作業を行っています。

各ボランティア団体が輪番制で作業を行なっているので、大体4週間に1回（月に1回）担当しています。

1回の参加者は、全体で10～20人で、八雲町職労としては家族も含めて延べ5～10人くらいです。

今年は、7月下旬の3回の活動で述べ29人が参加している現状です。（前年実績：6回参加 延べ47人）

写真は、苗植え後最初の雑草除去作業です。ここまできると雑草も小さな緑色の花に見えてしまうくらいびっしりです。

写真上部のように茶色い土が見えている状態を見るとやりがいを感ずります。

# 海岸清掃クリーン作戦

海岸清掃は、海洋プラスチックごみ等への問題意識を高め、環境保全意識の高揚を図るために開催されています。町内の海岸線に漂着するプラスチックごみ等を、行政・地域住民やボランティア団体等で協力をしながら回収を行っています。

黒岩漁港からシラリカ川までの海岸（約1.75km）を大体1時間半かけての回収作業となります。

回収ごみの種類としては、ごみ袋に入る大きさの生活ごみ（プラスチック、発泡スチロール、ペットボトル、缶類、ビン類、ゴム類、紙類、布類）をメインとし、大きいものは業者による回収がされます。

また、単に海岸清掃を行なっているだけではなく、「こんなごみが漂着している!？」などとコミュニケーションを図りながら活動もできます。

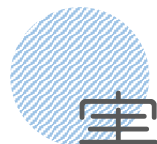
ごみの中には、外国語で書かれたものも見受けられました。



# 防災（災害対策）

ここまで八雲町職労のボランティア活動について報告してきましたが、続いては地域とつながる公務、防災です。日本は自然災害大国で、いつ災害が起きるかわかりません。地域住民を守り、そして協力してもらうためには、地域とのつながりは日頃から欠かせません。町民の方々に備えてもらう、災害対策は自治体だけではなく町民の協力が不可欠であることを理解してもらい、他人事と思わせない活動が重要と考えます。そこで、これまでの防災（災害対策）活動について報告します。



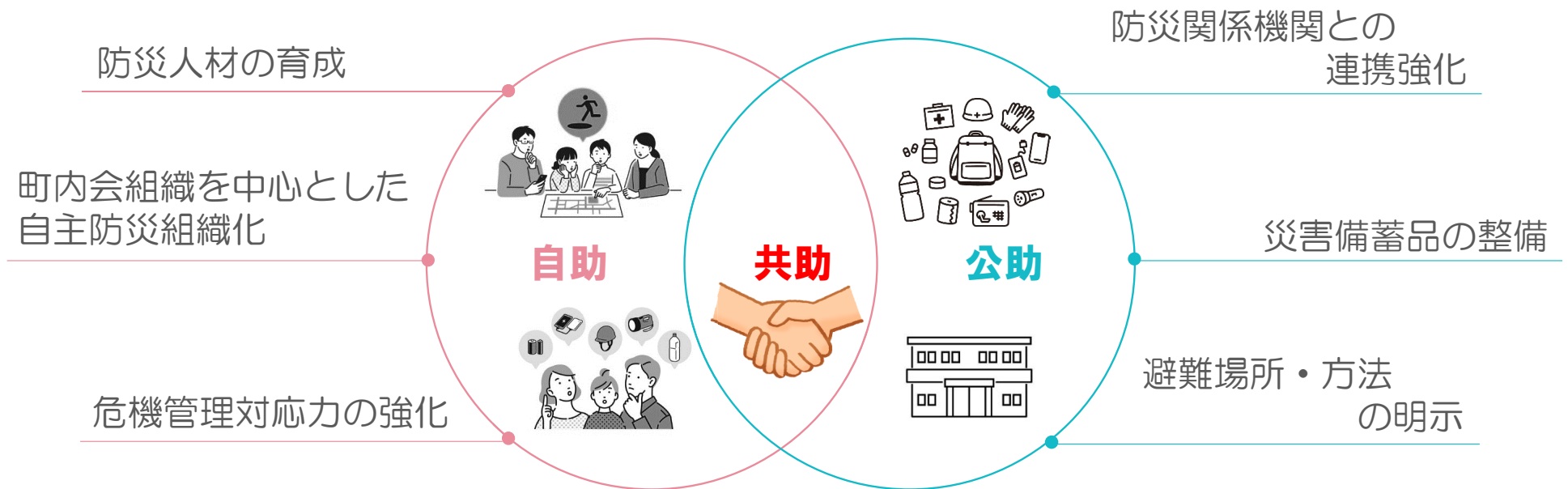


# 実際の災害時の状況（土砂災害・洪水）





# 防災（災害対策）の方向性



赤い部分は地域を巻き込んだ人材育成部門（自助）とし、青い部分は災害対策本部がメインとなる準備部門（公助）と位置付けます。これはどちらか一方が欠けてしまえば、有事の時に混乱を招く恐れがあると考えられます。

日頃から自助・公助どちらも備え、学習することで2つが重なり合い「防災（共助）」になると考えます。

このように、自助・共助・公助の関係性は大変重要なものとなります。

※この方向性は、八雲町危機対策課が示したものであり、育成部門（自助）・準備部門（公助）は資料作成者が考察する上で考えたものとなります。

# これまでの実績

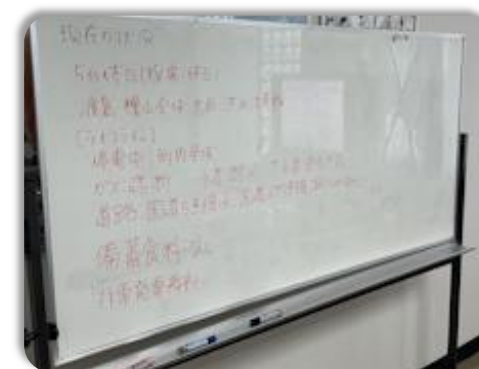
八雲町はこれまで総務課の中に防災係が位置付けられていたが、2024年4月1日付けより、危機対策課が新設されました。総務課時代から現在の危機対策課までで行われた実績を一部紹介します。

- 各種防災計画の策定
  - ー八雲町地域防災計画
  - ー八雲町強靱化計画
  - ー八雲町津波避難計画
  - ー八雲町国民保護計画



- ハザードマップの作成
- 関係者によるゲリラ訓練
- 災害対策本部（図上）訓練
- リアルDo はぐ訓練
- 防災1日学校
- 防災イベント
- 出前説明会

ー2024年度は6回（7月末時点）の研修開催（町内会、企業、職員など）



# 研修の様子



## 避難所運営ゲーム（HUG） 北海道版 ～Doはぐ～

避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

扱うカードは3種類！

避難者カード

<b>きたきつねさん</b>	
男 43歳	西浦2班 半壊
世帯主・妻・長男	
雪で濡れている。車で避難してきた。	
203	

イベントカード

<b>イベント20</b>
芸能事務所より、ある歌手が「避難している方々を歌で勇気づけたい」とのことで、明日訪問したいそうですが、どのように返事をしますか？
104

情報提供カード

<b>情報提供</b>
これからのゲーム設定です
二日目の夕方になりました。引き続き、雪が降っており、薄暗くなってきました。暖房のない部屋の室温は12度くらいで、徐々に下がっています。
49

## 参加者の生の声！！

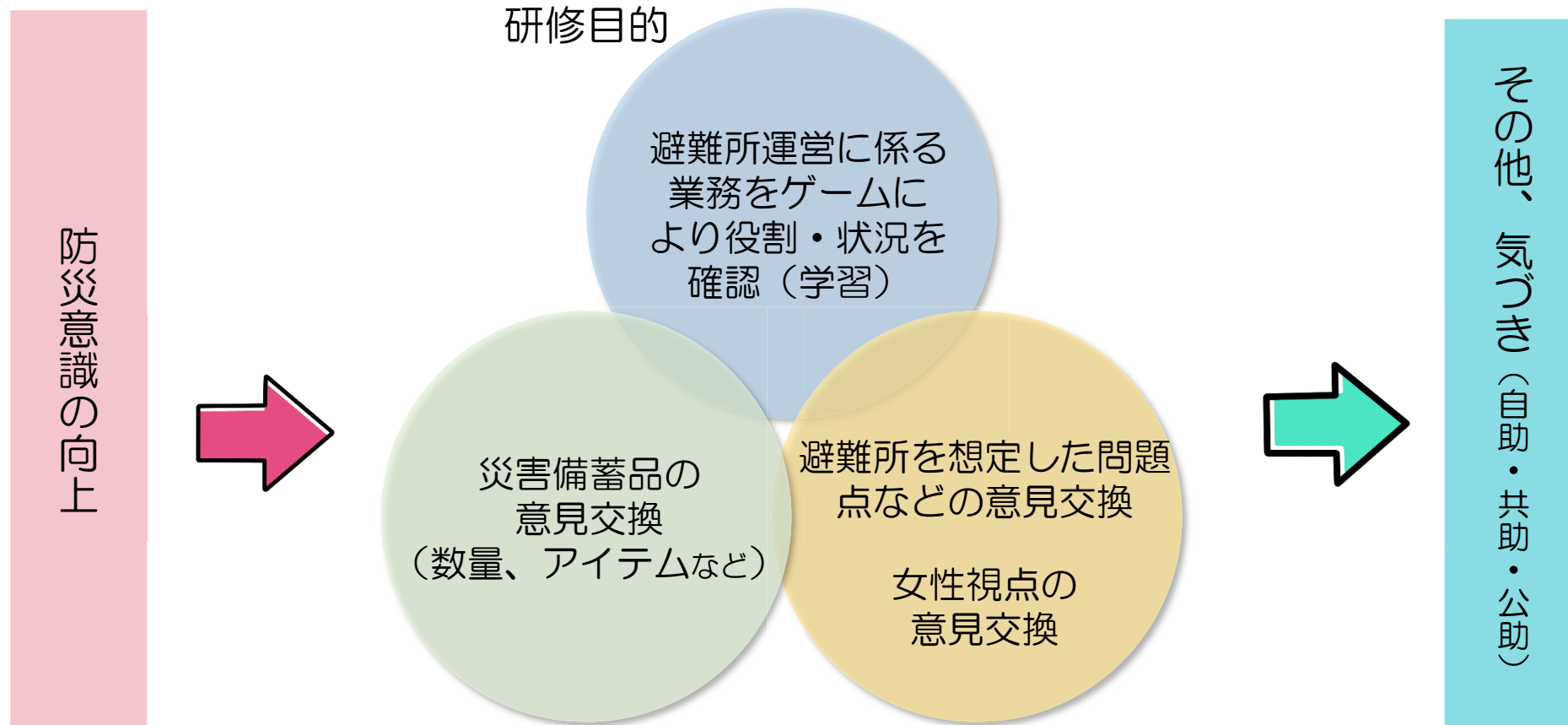
- ・真剣かつ楽しみながらできた。
- ・自分では気が付けない部分もみんなでやると気が付けた。
- ・やる前とやった後で感じ方が変わった。

# イベントの様子



100円ショップで揃う防災グッズや避難所で活躍する段ボールベッドの展示が行われました。  
また、災害時の食事やトイレについても展示をして、身近に感じやすくなっています。





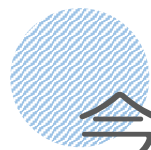
向 上 … 災害はいつ起きるかわかりません。日頃から備え、防災意識をもってもらえる環境づくりを行います。

研 修 … まずは図上で想定される動きを確認・学習します。確認・学習することで問題点や疑問点を話し合い、自分が気が付かなかったことや違う視点が見えてきます。また、モヤモヤ疑問も解消できます。

災害備蓄品については、災害対策本部の業務と思いがちですが、意見交換の場で必要な備品を確認し合うことができ、新たな備品や設備の必要性に気がつくことができます。

気づき … ひとりではなく、また常に防災に関わる関係者でもなく、ある意味未熟だからこそ見える視点で新たな発見や考えがうまれます。

防災意識の向上 ⇒ 研修 ⇒ 気づき ⇒ 意識向上 … とサイクルしていく活動を継続して行っていきます。



## 今後の課題と活動

ここまで八雲町職労のボランティア活動と公務業務のひとつについて報告してきました。ボランティア活動も防災業務も「継続は力なり」です。できることからコツコツと小さいながらに継続していくことが必要と捉えます。

これまでの取り組みを通して再認識したことは、①人材育成の必要性 ②若年層への参加呼びかけ ③意識の向上（自分ごとに捉える）です。この背景には、「地域の高齢化」にあわせて「若者の都市部への流出」そして、一概には言えませんが「ネット社会による現地結集離れ」を感じます。

ボランティア活動においては、謙著に表れていると感じました。年配の方の参加が目立ち、八雲町職労においても中堅層以上の参加が多いと感じます。若年層の積極的な参加を促す策を考える必要を改めて感じました。

まずは結集することです。これは組織力をもった労働組合に必要な不可欠といえます。そして組合員の職場は、福祉、病院、建設、水道、環境、交通、防災、観光、産業など分野は多岐にわたることから、「地域マネジメント」に適した企業体といえます。

普段は職場配置や業務分担によって見えづらくなっている部分もありますが、新しい発見・発想、また課題に適した人材を参加させることで、さらなる人材のスキルアップになり、まちの未来につながると思います。

長期的な展望をもって課題解決に向けて地域と連携し、人材・地域資源を活用した取り組みを進めていきたいと考えています。考えるだけで終わることなく、しっかり実行に移すには、多くの組合員の参加が必要なことから、八雲町職労全体の情報共有が重要になってくると思います。何を課題としてどこに向けて動き出すか、多くの組合員が知恵を出し、参画しやすくする仕組みづくりを考えていかなければなりません。

また、昔とは異なり八雲町出身者ではない若年層の採用が増えています。八雲町の魅力を知ってもらい、好きになってもらうことがこの自治研究の第一歩と考えます。

好きになる ⇒ （ボランティアなど）活動に参加する ⇒地域とつながる のサイクルを目指した活動を進めていきたいと思っています。

私たち自治は、地域と切っても切り離せません。地域とつながる（ボランティア参画、有事の啓発）ことで地域のための一歩となることを心に継続した活動をしていきます。